

基調講演 1

独創・協創・競創の未来：タンジブル・ビットからラディカル・アトムズへ



Photo Credit: Junichi Otsuki

石井 裕 (いしい ひろし)

MIT メディアラボ副所長、タンジブル・メディア・グループ・ディレクター、Jerome B. Wiesner Professor of Media Arts and Sciences.

情報生態系を支える水路網の劇的な構造変化、そしてその水路網を再編集されながら循環する情報水流の加速。これらの変化の先の未来を予測するベストの方法は、自分たちの手で未来を発明すること。私たちメディアラボは、世界中の先進的な企業とのコラボレーションを創造のエンジンとし、未来ビジョンを創出・発信するために、ユニークな「独創・協創・

競創」の文化風土を作り上げてきました。その中から生まれたのが、タンジブル・ビット、そしてラディカル・アトムズです。人々が生涯を通じ物質的な世界と関わりあうことで育んできた豊かな感覚と能力を活かし、人間、デジタル情報、そして物理世界をシームレスにつなぐインターフェイスを実現することが、ゴールです。本講演では、タンジブル・ビットからラディカル・アトムズへの進化と、タンジブル・メディア・グループがデザインした多様なインターフェイス例をご紹介します、ユビキタス GUI を越える未来をご提案いたします。さらに MIT をとりまく「競創」の風土を生き抜く術について、お話させていただきます。

略歴

1956年東京生まれ。1978年北海道大学工学部卒業、1980年同大学院情報工学専攻修士課程修了、日本電信電話公社（現NTT）入社。1988～94年 NTT ヒューマンインタフェース研究所において、リモートコラボレーション技術の研究に従事、TeamWorkStation および ClearBoard を発明。1992年北大から博士号取得。1995年 MIT から准教授に招聘される。1995年10月 MIT メディアラボにおいてタンジブル・メディア・グループを創設、直接操作・感知可能なタンジブルユーザインタフェース Tangible Bits の研究を開始。2010年からは、デジタル情報により動的に変形する物理マテリアル Radical Atoms の研究を創始。現在 MIT メディアラボ副所長、タンジブルメディアグループ・ディレクター、工学博士。2001年 MIT からテニュア(終身在職権)を授与される。2006年 ACM SIGCHI より CHI Academy を受賞、2010年 船井業績賞受賞、2014年 inFORM が Fast Company Innovation by Design Award 他受賞、2015年作品 TRANSFORM が Platinum A'Design Award 他受賞。氏の仕事は、サイエンス：HCI (Human-Computer Interaction) & CSCW (Computer Supported Cooperative Work)、デザイン、メディア・アートの研究分野で広く知られ、ACM CHI、CSCW、UIST、SIGGRAPH、Multimedia、Interact、ECSCW など数多くの国際会議、及び Cooper Hewitt Design Museum, Milan Design Week, Cannes Lions Festival, Aspen Ideas Festival, IDSA, ICSID, AIGA, Ars Electronica Center, NTT InterCommunication Center (ICC), Centre Pompidou, Victoria and Albert Museum, Venice Biennale, Art Futura, 熊本市現代美術館などで、発表展示を行ってきた。著書に『タンジブル・ビット/情報の感触 情報の気配』『CSCW とグループウェア』『グループウェアのデザイン』ほか多数。